

大牟田市立駛馬小学校

1 本校のESDの特徴

本校は、「知・徳・体の調和のとれた心豊かで実践力のあるたくましい子どもの育成」を学校教育目標に掲げ、ESDの実践を通して、「人格の発達や自立心、判断力などの人間性を育むとともに、他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「つながり」「かかわり」を尊重できる児童を育成する。」という目標を設定している。本校校区は東側に世界文化遺産「宮原坑」があり、南側には諏訪川が流れている。また、近隣には多くの福祉施設があり、地域活動が活発に行われている。

このように、歴史や文化、自然環境、福祉に関することを体験的に学ぶことができる環境に恵まれた地域である。本校ではこれらの学習環境を生かし、世界文化遺産(SDGs 11, 17)、福祉(SDGs 3, 17)、環境(SDGs 14, 17)を学習対象としたESDを展開している。

特に、世界文化遺産「宮原坑」に訪れた方を対象に取り組んでいる「子どもボランティアガイド」

(写真1)では、活動を通して子どもの郷土愛や社会貢献の自覚、自尊感情、コミュニケーション能力が高まる等、プログラムとして大きな成果をあげている。



写真1 宮原坑ボランティアガイド

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

(1) 本校のESDの目標

学校の教育活動全体を通じて、人格の発達や自立心、判断力などの人間性をはぐぐむとともに、他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「つながり」「かかわり」を尊重できる児童を育成する。

(2) 指導の重点

- 地域と直接かかわる体験を重視し、自ら課題を見だし、主体的に問題解決できるようにする。
- 各学年のねらいを明確にし、学習内容と各教科等や各学年間の関連を図り、系統的・発展的な指導ができるようにする。
- 「関心の喚起→理解の深化→参加する態度」や問題解決能力の育成を通じて「具体的な行動」を促すという一連の流れの中に位置づける。
- 指導体制や地域との協力体制をつくり、学習が効果的に進められるようにする。

(3) 各学年の主な活動

- 1年生：「むかしのあそびにちょうせんしよう」
- 2年生：「はやめこうくのすてきをしょうかいしよう」
- 3年生：「駛馬のよさ発見隊！」
- 4年生：「クリーンアップ諏訪川」
- 5年生：「一人暮らし高齢者訪問」
- 6年生：「駛馬の魅力発信！プロジェクト」

3 特徴的な活動事例

(1) 4年生：「クリーンアップ諏訪川」



諏訪川でのカヌー教室体験を基に、上流・中流・下流の水質の状態を比較することから、水質の変化とその原因を調べたいという課題を設定し、調査内容を決定していった。次に、諏訪川に生息する様々な生き物について詳しいG・Tや市の環境保全課の方の協力を得て、透視度や生き物の生息調査などを行った。また、地域の方々の諏訪川への思いを知るための調査を行っていった。

以上のことを基に、自分たちに出来ることを考え、諏訪川クリーンアップポスターを制作することで地域に発信することができた。

(2) 5年生：「一人暮らし高齢者訪問」



市や地域の高齢化率について調べることから、その課題について話し合い、活動内容を決定していった。次に、地域の施設や民生委員の方々からのアドバイスを基に、様々なケースでの高齢者の方との接し方や自分たちにできることについて考えたことをどのように実践していくかを話し合っていた。そして、グループ毎に一人暮らし高齢者宅を訪問することで、これからの自分たちができること、したいことについて考え、地域の行事に積極的に参加したり進んで高齢者の方と関わりを持ったりすることができた。

(3) 6年生：「駿馬の魅力発信！プロジェクト」



「宮原坑」の来客数減少といった課題の基、増加を目指し、「宮原坑」の魅力と「ボランティアガイド」活動のスケジュールを記したリーフレット（写真2）を作成していった。そして、市役所の方々の協力を得ながら市内の公共施設・商業施設等に配布した。また、同じ明治日本産業革命遺産関連施設を有する地域やガイドを行っている学校にも郵送し、つながりをつくっていった。

11月3日の「炭鉱の祭典/宮原坑フェスタ」においては、児童の「宮原坑と駿馬のまちの魅力をさらに発信していこう。」というテーマの基、一角に「駿馬大学」を開講した（写真3）。開講に向けては、子どもたちが企画したことを地域の方々にプレゼンテーションしたり、PTA主催「ふれあい祭り」の開催も同時に行うことを保護者に呼びかけたり、市の方々の協力を得ながら準備したりして、児童と保護者、地域、市の方々と親睦を深めながら、一丸となって発信していくことができた。



写真2 自作のリーフレット



写真3 GTの方と活動する様子

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・子どもたちは地域や保護者、市の方々等とのつながりを深めながら実践的な活動を進めたことで、子どもたちも各団体の方々も満足感を味わうことができたと考えます。

○課題

- ・幼保・小・中・高・地域・保護者等とのつながり（コラボ）の強化と発信。